

平成29年度 シラバス (航海・計器A)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	水産 (航海・計器A)	単位数	2 単位	学年 (コース)	2 学年 (海洋技術コース)
使用教科書	航海・計器 (海文堂出版会社 発行)				
副教材等	四級海技士 (航海) 800 題 問題と解答				

1 学習目標

船舶を安全かつ適切に航海するために必要な知識と技術を習得させ、実際に漁業生産など海上業務に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

船舶職員 (乗組員) として基本的な知識と技術が必要なことから

- ①航海について必要な情報の収集と活用ができるようになる。
- ②海上交通三法を的確に理解し、航法規定に基づいた適切な行動がとれる判断力をつける。
- ③実験・実習を通して、船舶の安全な航海について理解する。

3 学習計画

月	単 元 名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	航海の仕組み				
	航海の意義と沿革航海と航法・計	度分と海里	○度分と海里、距離と時間と速さの関係を理解する。	8	授業の取組 各時間の課題・レポート
5	算航海に関する情報	距離と時間 時間と弧度	○航海情報の種類と収集・活用の基本的な知識を習得する。		
6	中間考査	位置の表し方	○海図の取扱法を習熟する。	1	
7	海図と航路標識	速力と航程	○航路標識の役割と意味を理解する。	13	
	海流や潮汐の概要 (30日乗船実習) 期末考査	潮流 潮汐	○潮汐・潮流に関する用語と、それらの現象について理解する。	1	
9	地文航法	推測航法 平面航法	○沿岸航法と推測航法の基礎的な内容と計算方法について習得する。	25	
10	中間考査				

11	海上交通関係法規 海上衝突予防法 及び同法施工規則	海上衝突予 防法	○海上交通の過密化や複雑化をふま え、海上交通の基本となる海上法規 の基本的な内容を理解する。	1	授業の取組 各時間の課 題・レポート
12	期末考査				
1	海上交通関係法規	海上交通	○海上交通の過密化や複雑化をふま え、海上交通の基本となる海上法規 の基本的な内容を理解する。	14	授業の取組 各時間の課 題・レポート
2	海上交通安全法	安全法			
3	及び同法施行規 学年末考査			1	

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- 授業で配付したプリントおよび課題
- 長期休業中の課題、ノート

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○海事従事者の一員として望みや心構えを身につけようとしている。 ○航法や航海算法に関心を深め、進んで知識を習得しようとしている。	○航海法規の規定から避航・保持動作について、知識と技術を活用して適切な判断ができる。 ○航海に必要な情報を収集し、考察、活用することができる。	○船舶を安全かつ適切に航海させるために必要な技術を身につけ、的確な過程を経て、目的に応じた結果を導き出すことができる。	○船舶を安全かつ適切に航海させるために必要な基礎な知識を身につけ、理解している。
<p>以上の観点を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取組状況（授業態度、出席状況、発表、学習参加状況など） ○提出物（レポート、プリント、ノート）の内容及び期限の厳守 ○小テスト（小単元毎）、定期考査（年間5回）、自己評価 <p>などから総合的に判断します。</p>			

6 担当者から一言

船舶を安全かつ適切に航海させるために必要な航法や、航海に関する情報等の知識と専門用語や技術を学ぶ科目です。

学習活動を通じて、船舶の安全運航と海上業務の基本的な事गरら覚え、それらを活用できる能力と態度を身につけるために努力しましょう。

(担当 岩谷和彦)

